

令和5年産 果樹情報（第2号）

令和5年6月12日
宮城県大河原農業改良普及センター

6月は梅雨の季節です、降雨前の予防防除を徹底しましょう。

（令和5年の梅雨入り：6月11日ごろ 平年より1日早く、昨年より5日遅い）

- ・病害の多くは降雨により感染が拡大します。特に、保護殺菌剤は降雨前に散布しないと効果が低下します。
- ・今月は、日本なしの黒星病やりんごの斑点落葉病、輪紋病の重点防除時期です。

1 気象経過

5月は、高気圧に覆われて晴れる日が多かったため、月間日照時間は平年より多くなりました。6日～8日にかけては、まとまった雨となり7日～9日は寒気の影響で肌寒い日が続きました。一方17日～18日は、高気圧に覆われ県内各地で真夏日を記録するなど寒暖の変動が大きくなりました。月平均気温は[平年並]。月降水量は概ね[平年並]。月間日照時間は[多い](仙台管区气象台IPより)。

2 果樹作況調査ほの果実肥大状況

開花期が早まったため果実肥大は、平年比120～134%となっています。

表1 6月5日（もも）及び12日（りんご・なし）の果実肥大状況（単位：mm）

樹種	品種	地点	令和5年		令和4年		平年値		平年比(%)	
			縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
りんご	ふじ	白石・郡山	39.0	39.1	33.2	31.2	32.1	30.3	120	127
なし	幸水	角田・豊室	33.9	38.0	28.2	30.9	25.5	28.3	133	134
		蔵王・高木	29.9	31.9	24.0	25.5	23.6	26.1	125	121
	豊水	角田・豊室	35.1	36.2	27.3	28.2	26.3	27.9	133	130
		蔵王・高木	30.2	31.7	25.5	26.4	24.4	25.5	123	123
もも	あかつき	丸森・館矢間	48.7	46.0	46.3	41.7	39.4	36.7	124	126

3 樹種ごとの管理

(1) りんご

イ 仕上げ摘果

- ・満開60日後まで（白石・郡山「ふじ」は6月13日頃）を目安に終了すると果実品質が高まります。標準的な着果量は表2のとおりです。
- ・4月の降霜により中心花が被害を受けている場合は肥大の良い側花を残すようにし、サビが懸念されることから数回に分けて仕上げましょう。

表2 品種別の標準的な着果量

品 種	着果量の目安
つがる, ジョナゴールド, サワールージュ	3.5頂芽に1果
ふじ, 王林, 早生ふじ, トキ, シナノゴールド, シナノスイート, ぐんま名月, さんさ	4頂芽に1果
北斗, 世界一	4～5頂芽に1果

□ 新梢管理

- ・ 樹冠内部への日照を妨げている場合や防除薬剤の到達を妨げている場合など、必要に応じて徒長枝を切除します。
- ・ 太枝の切り口付近や背面、わい化樹の側枝基部などから強い芽が発生してくるので長大化する前に切除します。

ハ 病害虫防除

・ 斑点落葉病

最低気温が 20℃以上で 3 日以上連続降雨で急増する傾向があり、特に梅雨期から夏期の高湿多雨で多発しやすいので、今後の発生に注意するとともに、特に梅雨時期は薬剤防除間隔が開きすぎないように注意します。

・ 輪紋病

梅雨期が重点防除時期であり、特にいぼ皮病斑の多い園地では予防防除を実施するとともに、いぼ皮病斑（翌年の伝染源）の発生防止のため、枝幹部へも薬剤が十分かかるように散布します。

・ ハダニ類

高温乾燥が続くと発生量が急増します。1 葉あたり 3 頭以上確認されたら殺ダニ剤を散布します。除草作業と殺ダニ剤の散布日が近接する場合は、除草作業の数日後に殺ダニ剤を散布します。また、ナミハダニは雑草から移動し加害することがあるので、隣接園地の発生状況にも十分注意します。

(2) 日本なし

イ 修正摘果

- ・ 開花期間中一部の園地では、降霜の被害がみられました。果実のサビなど障害の程度を確認しながら摘果を行います。
- ・ 満開後 60 日～70 日（6 月中旬～6 月下旬）の新梢停止期前に着果量が多く小玉果が目立つとき、新梢の生育が悪いときは着果量を調整します。
「幸水」は、7 月頃裂果が見られることが多いので摘果は一時控え、裂果が収束したところで小玉果、変形果、障害果等を取り除きます。
「豊水」は、スジ果や小玉果を中心に着果量の見直しを行い、軸折れ果を確認しながら見直し摘果を実施します。

□ 新梢誘引

・ 新梢のせん除

側枝基部に発生した新梢や主枝・亜主枝の背面から発生した新梢のせん除を行います。ただし、主枝・亜主枝上から直接発生する新梢の数が少なく、更新候補枝の確保が困難な部位では側枝基部の側面から発生した新梢を利用するようにします。

時期は、満開後 45 日～60 日（6 月上中旬）を目安に実施します。この時期以降では樹勢低下や果実糖度の低下に影響を与えるので注意しましょう。

・ 予備枝の管理

幸水の予備枝誘引適期は、新梢停止期の約 10 日前の満開後 65 日頃（6 月中下旬頃）になります（新梢長 90～100cm，展葉節数が 18～20 節程度）。

不定芽新梢を含めた新梢誘引は、受光条件の改善や防除効果の向上、冬期剪定後の結果枝棚付けの労力軽減、省力化などが期待できるので「幸水」以外の品種でも積極的に実施します。

ハ 病虫害防除

・黒星病

この時期は、果実への感染危険度が高まります。病斑のある葉や果実は見つけ次第取り除き、ほ場に放置せず地中に埋めるなど適切に処分します。

黒星病は雨の日に感染し、潜伏期間 14～30 日程度で発病します。薬剤防除の間隔は 7～10 日とし、降雨前に予防防除を実施します。

・シンクイムシ類、ハダニ類

ナシヒメシンクイは 6 月下旬から第 1 世代が発生します。ハダニ類もこれから夏季にかけて増加するのでほ場内を見回り、発生初期の防除を徹底します。

(3) もも

イ 修正摘果

「あかつき」で核障害の発生が多い場合は、修正摘果は 2～3 回に分け、次の果実に注意します。

〔果頂部の変形、縫合線が深い、果面からヤニが発生、果皮が変色、極端な肥大〕

ロ 新梢管理

5 月下旬～6 月中旬は、新梢の生育が最も盛んな時期で、樹勢の強い樹や若木等では樹冠内が過繁茂しやすくなります。樹冠内部、主枝・亜主枝・側枝の基部など徒長しやすい新梢は早めに摘心や夏季せん定を実施し、健全な樹体管理を心がけます。

なお、樹勢の弱い樹については葉面積の確保を優先し、夏季せん定を行わないか最小限とします。

ハ 病虫害防除

・せん孔細菌病

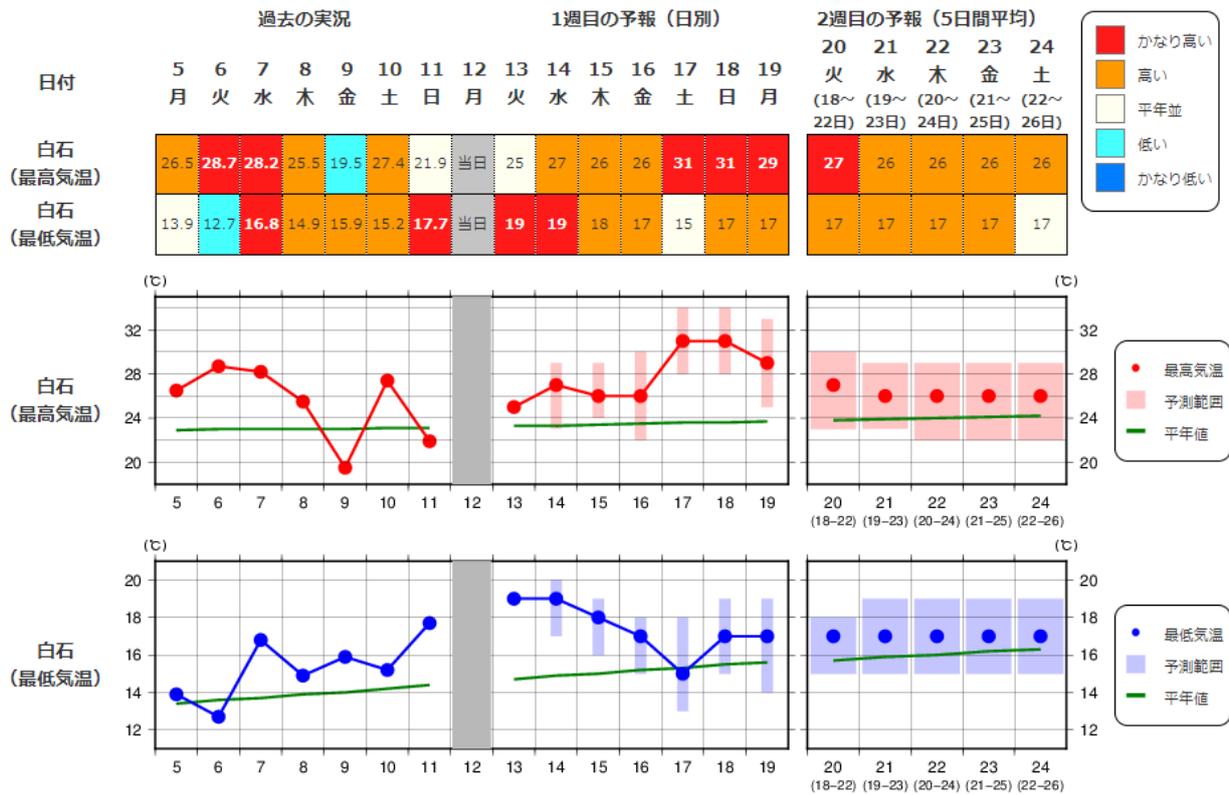
春型枝病斑を取り除くとともに、果実感染の時期なので、薬剤防除は、降雨前に 10 日間隔で実施します。

・ホモプシス腐敗病、灰星病

芽枯れや枝枯れが見られる場合は、見つけ次第せん除します。重要防除時期なので、薬剤防除を徹底します。

- ・ 薬剤散布に当たっては早生種の収穫時期に十分注意し、収穫前の使用日数制限を遵守します。

4 2週間気温予報（気象庁HPより出典）



農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ・ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう。
- ・ 農薬容器のラベルをよく読みましょう。
- ・ 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう。
- ・ 土壌くん蒸剤（クロルピクリン剤等）の取扱いに注意しましょう。
- ・ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう。
- ・ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう。